令和4年度末　車椅子使用者が単独乗降しやすいホームと車両の段差・隙間の縮小に向けた整備状況について

令和5年3月31日現在

〇ホームと車両の段差・隙間の目安値の設定

車椅子使用者が単独乗降しやすい環境を整備するため、関係者団体、学識経験者、鉄道事業者等から構成される検討会※1を設置し、車椅子使用者の単独乗降と列車走行の安全確保を両立するホームと車両乗降口の段差・隙間の目安値の検討を行った。

検討会において、様々なタイプの車椅子を利用する車椅子使用者による実証試験を行った結果、約9割の方が単独乗降が可能であった段差3cm・隙間7cmの組み合わせを目安値とした。

この目安値の段差3cm・隙間7cmは、列車走行の安全を確保するため、基本的に、車両の揺れや軌道の変位等の影響が少ないコンクリート軌道かつ直線部を含むホームの駅において満たすこととした。（令和元年8月とりまとめ）

※1.　令和元年8月 「鉄道駅におけるプラットホームと車両乗降口の段差・隙間に関する検討会」とりまとめ
（https://www.mlit.go.jp/tetudo/tetudo_fr7_000029.html）

〇令和4年度末現在における、ホームと車両の段差・隙間を縮小し目安値を満たすホームを有する駅数は以下のとおり。

この駅数には、コンクリート軌道かつ直線部を含むホームを有する駅※2のほか、バラスト軌道あるいは曲線ホームであっても、比較的軌道変位の少ない軌道構造や緩い曲線のホームであるため、目安値を満たすホームを有する駅を含む。

※2.　技術的な課題があるため当面は縮小が進まない駅（駅入口からホームまでのバリアフリー化が進んでいない駅や、床面高さの異なる複数の車両が乗り入れているためホーム高さの決定に時間を要する駅）は除く。

事業者名	ホームと車両の段差・隙間を縮小している駅数※3	
		うち平均利用者数が3千人/日以上及び重点整備地区内の生活関連施設に位置づけられた平均利用者数が2千人/日以上3千人/日未満の駅数
JR東日本	70	70
JR東海	1	1
JR旅客会社　　小計	71	71
東武鉄道	8	8
西武鉄道	7	7
京成電鉄	4	4
京王電鉄	13	13
小田急電鉄	4	4
東急電鉄	57	57
相模鉄道	7	6
大手民鉄　　小計	100	99
東京都交通局	68	68
東京地下鉄	67	67
横浜市交通局	11	11
地下鉄　　小計	146	146

JR、大手民鉄、地下鉄　小計	317	316
中小民鉄、路面電車等　小計	139	103
鉄軌道全体　合計	456	419

（参考値）

段差・隙間の縮小が可能な駅	846	805
全ての駅数	2,194	1,517
（参考）令和3年度末の数値	413	368

※3.　「ホームと車両の段差・隙間を縮小している駅数」とは、一列車またはホーム一箇所でも、ホームと車両の間の段差・隙間が段差3cm・隙間7cmを満たす箇所がある番線（のりば）数を一部でも有する駅数をいう。

注）1.　新幹線が乗り入れている在来線の駅であって、在来線の駅を管理する事業者が新幹線の駅も管理する場合、当該在来線の駅に新幹線の駅も含み全体で1駅として計上している。新幹線の駅と在来線の駅を別々の事業者が管理する場合は、別駅として計上している。

注）2.　2以上の事業者の路線が乗り入れる駅であって、事業者間の乗換改札口が設けられておらず、改札内で相互乗換えができる場合は、全ての事業者の駅を含めて全体で1駅として計上している。この場合、代表して1事業者に当該駅を計上している。